

太陽の子

2017年 7月 No.160

夏の号

発行

日立市助川町5-14-8

TEL(23)2620 FAX(33)9150

ホームページ <http://www.taiyonoie.com>

Eメール npo@taiyonoie.com

NPO法人 日立太陽の家

日立重症心身障害児(者)を守る会

日立太陽の家支える会



陶芸体験をしました。粘土の冷たい感触にふれながら、それぞれ記念に残るものを作りました。完成が楽しみです。(太陽の家)

愛と感動の障害者歯科

社会福祉法人陽光福祉会 エコー療育園

歯科科長 齊藤 峻

太陽の家に日立市障害者歯科診療所が設置されてから二十四年になります。開設に至る経緯については「太陽の子」のNo.一二二～二二五号、二〇〇八に清宮侘子さんが詳しく連載してくださっています。中山達之助さん始め、多くの人達のご尽力で開設できたことがよく分かります。私は開設当初から今日まで請われるままに、微力ながらも診療のお手伝いをさせてもらっています。管理者は間所芳江先生から菊地英子先生へ、そして現在は竹内倫子先生が担ってくれて、心優しいスタッフ(歯科衛生士と看護師)にも大変お世話になっております。

どんな障害者でも健常者と同じように、希望する地域の一般開業医で対応してもらうことが理想ですが、そこで難しいければ、通院に時間がかかっても、大病院の障害者歯科や口腔保健センターなどの専門医がいる限られた医療機関になります。日立市障害者歯科診療所は、より身近で気兼ねなく受診できると思いますが、限度があります。全身麻酔をかけての治療が必要な場合には、総合病院に紹介させていただくこととなります。

私は大病院時代から今日まで障害者歯科医療に従事してきて、様々な患者さんに出会いました。難治性のでんかんがあり、寝たきり状態の患者さんがいて、ご両親が車で一時間半以上もかけて連れてきていました。他にも移植片対宿主反応で入院中の患者さんがいて、全身に包帯を巻かれて痛みを耐えています。母親の励ましで歯科治療にも頑張ってくれました。診療室を走り回る自閉症の患者さんを父親が治療椅子に乗せて、必死で取り押さえてもらったこともありました。

そのような患者さん達と親御さんに長年お付き合いさせてもらって学んだことは、どのご家族も大変な思いをされながらも、わが子に対する慈しみと愛情の深さがあり、いつも感動させられます。一旦、障害者と出会うと、その存在が気になります。ご家族の要望にどこまで応えることができるか分かりませんが、ここに愛と感動の障害者歯科がある限り、これからも絆を大切にしていきたいと思っております。

自立支援へ向けて

日立太陽の家風の家

鈴木 美保

風の家での利用者さんとのかわり方は、まず初めに家庭と同じようにリラックスして過ごせるようになること、安心・安全に宿泊ができるようになることを目指しています。居宅介護事業所で日中を過ごし、来る方、太陽の家から来る方が、15時に入所し、夕食までの時間は少し休憩！ゆつくり過ごします。キッチンで夕食を作る音を聞き笑顔がこぼれたり、職員との会話を楽しむ人、日中の疲れがでたのかウトウトしたりする人、思い思いに過ごします。美味しい夕食の後は、クイズ番組や、音楽番組を見て一緒にクイズを解いたり、歌を歌ったり楽しい時間を過ごします。就寝時間になると利用者さんによっては、風の家でのお泊りを楽しみにして、遊びに来る感覚でワクワクしてなかなか眠れない方や、ぐっすり安心して眠っている方などいろいろです。男子同士、女の子同士、同年代、男女混合などいろいろな組み合わせを考え、たくさんの方々の交流が持てるようにしています。利用者さんによっては、あまりお泊りのメンバーが変わ

らない方もいますが、パターン化しないように努力しています。

次に健康管理に気を付けています。入所後バイタルチェックを行い寝不足ではないか、食事は取れているか、排泄はどうかなど一人ひとり保護者の方からの申し送り表や、他事業所からの申し送りを聴き対応するようになっています。

まだまだご家庭で過ごすうにはいきませんが、利用者の方々は少しずつ風の家でのお泊りに慣れてきたように思います。保護者の方々もお子さんが自立支援の風の家を利用したとき、お子さんと離れた時間を有意義にすごしていただきたいと思えます。風の家での体験を積み重ね、もうワンステップ他事業所の短期入所も利用してみたいかがですか。リフレッシュして双方がより良い時間の過ごし方ができるように願っています。

笑顔を力に変えて

日立太陽の家

相談支援員 真山 理華

私が相談支援事業に関わることになって4年が経ちました。今までいろいろな方達の助けを受けながら、毎日があつと言う間に過ぎていきます。相談

支援サービスで関わっている利用者さんの状態や状況はさまざまです。

支援する側も支援会議を通じて、さまざまな方達と連携を取り共通理解しながら、支援のあり方を話し合います。「どうしたらより過ごしやすい状況へ近づけられるのか?」「どうすることで利用者さんの思いが叶うのか?」何度も話し合いを繰り返しながら進めていきます。たくさん課題をクリアしてサービスが決まった時、利用者さんやご家族の笑顔を見るとこちらまでうれしくなります。しかし、100パーセント満足していただくにはまだまだ足りない事ばかりで皆さんにご迷惑をおかけしているのが現状です。

短期入所先、就労支援先、リハビリ施設などいろんな場所に向き、どんな利用者さんに適しているのか日々情報を集めています。困っていること、悩んでいること、不安に思うこととはありませんか? スタッフが一丸となり不安を少しでも安心に変えていけるように寄り添います。おかげさまの気持ちをお大切にたくさんの方の笑顔に変えて、これからもみなさんと一緒に歩んでいきたいと思

職員リレー

太陽の家と関わって

生活支援員 志摩 英子

私が太陽の家の職員となつて二年が過ぎました。

一年目は居宅事業所でした。毎日職員の誰かとペアを組んで、どんな利用者さんと関われるのか、わくわくドキドキしながらお仕事をさせていただきました。介護職初心者マークの私で不安がいつぱいでしたが、毎回組む職員に丁寧を教えていただき、失敗しても笑って許してくれた利用者さんに改めて感謝です。

また、印象に残っているのは、利用者さんの意思を尊重する職員の関わりです。スーパードキやコンビニで昼食を選ぶ時、利用者さんとのアイコンタクトで欲しい品物をキャッチする様子に感動したのを覚えています。

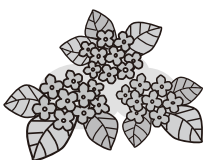
他にも利用者さんの大好きな入浴タイムを楽しくお話ししたり、入浴剤を入れてリラックスしたり、一緒に楽しんで笑いの絶えない日々でした。

二年目からは、ひまわり学園に異動になりました。朝は朝会から始まり、歩行訓練、

午後は作業と利用者さんと動いて、声をかけてと充実した毎日です。朝会時の出席確認でも各々の返事の仕方、表情に個性があつて自然と笑顔になります。

また、支援員の関わりで出来なかつた事がだんだんと出来るようになったり、職員間で情報を共有して、私自身も試行錯誤しながら過ごしています。でも、なかなか思うようにならなくて焦ったりもありませんが、利用者さんのあるがままの姿にいつも心がなごんでホッとさせてもらっています。

これからも太陽の家の理念である「ここは書物にない物を学ぶところである。」を思い、命を慈しみ豊かな毎日を送っていききたいです。



日立守る会だより

日立重症心身障害児(者)を守る会

平成二十九年度を迎えて

日立重症心身障害児(者)を守る会会長 藤 枝 利 彰

日立重症心身障害児(者)を守る会の総会が四月十五日(土)に日立市太陽の家にて於いてNPO法人太陽の家小又理事長のご臨席を頂き、また、日立守る会会員十九名・太陽の家職員四名の参加を頂き開催されました。

平成二十八年度事業報告・決算報告及び平成二十九年度事業計画・予算等の審議を行い、また、平成二十九年度の役員改選は任期二年目の為、全役員の再任が決まりました。その他審議事項は皆様の協力により承認されましたのでご報告致します。

会員の變動がありましたのでお知らせします。新会員として小安雄大君(高萩市)が、入会され、また、大森賢君(水戸市)が四月末日に茨城東病院に入所された為、日立守る会を退会されました。日立守る会の会員数は三十二名になりました。

今年一年日立守る会の運営には会員皆様の協力をお願いしな

がら努めたいと思います。主な日立守る会の事業計画は、

①県・日立市・日立市社協・日立七団体等で実施される各研修会が予定されていますので会員の皆様には是非参加して頂きたいと思ひます。

②日立ふれあい運動会が九月二十四日(日)に池の川さくらアリーナで行われる予定です。

茨城県重症心身障害児(者)を守る会の総会が五月十四日(日)にホテルレイクビュー水戸に於いて開催され、十一名の来賓のご臨席を頂き、日立守る会では二十二名の参加を頂きありがとうございます。

平成二十八年度事業報告・決算報告及び平成二十九年度事業計画・予算等の審議を行い、役員理事の一部変更も承認されました。

また、総会終了後、茨城県障害福祉課の講演があり「障害者

差別解消法・茨城県障害者権利条例について」、「医療的ケア児の支援について」の担当者による施策説明がありました。午後には小又理事長による「背景に寄り添うということ」の題目で講演があり、総会は無事終了いたしました。

事業計画では重要事項に全国重症心身障害児(者)を守る会・関東・甲信越ブロック大会が九月三十日(土)、十月一日(日)に水戸市のホテルレイクビュー水戸で開催されます。現在茨城県守る会理事会で詳細をまとめ

もつと親達のふれあいの場を

佐藤 芳 昭

大分以前からですが、親達が太陽の家に来る日、いわゆる保護者登園日が非常に少なくなりました。一昔前までは毎週のように保護者登園日があったため色々な情報交換や四方山話という雑談などの中でお互いの交流を深め自然と親同士心のふれあいが芽生え、それが少しずつ膨らみながらお互いの信頼関係が培われ、そしてそれが絆という形で現れてきていたのではないかと思います。

今の世の中色々な方法で自分が必要とする情報が容易に手

ていますが大会の概要は、第一日目・式典、基調講演、記録映画鑑賞、分科会、懇親会、第二日目・分科会報告、中央情勢報告、親の会報告、意見発表等の予定で大会が開催される事になっておりますので会員の皆様には大会のお手伝いの協力をお願いすることになると思ひますので大勢の皆様に参加して頂きたいと思ひます。

会員の皆様には今後、連絡事項等を適時、適切に伝えていきますのでよろしくお願い致します。

に入る事で、あまり人の手を煩わす必要がなくなっていることや、人との関わりを出来る限り小範囲にしたいと思ひもあるのか、自然と人とのふれあいを狭めてしまっているのではないかと思っています。

信頼や絆などは目に見えるものではないかもしれません。それは人それぞれ「こころ」の問題であろうと思ひます。保護者登園日が減っても、そのような事は取って心配する必要は無いと言われる方もおられるのではないのでしょうか？

しかし私は矢張り人と人との「こころ」のふれあいの中から自然と芽生え、ふれあいの回を重ねるごとに段々成長して行くのではないかと思っています。

私は親御さん達の色々な情報を漏れ聞かたきに絆という文字に、ある種の危惧感を感じています。この様に感じるのには私ばかりでは無いと思ひます。私はこちらでは無いと思ひます。私はこちらで一つの提案をしてみたいのです。一つは何か目標を立て、それに向ってみんなの力を結集して活動する。目標は何でも良いのではないのでしょうか。ほんの小さな事でも良いと思ひます。

あとも一つは、親御さんたちが保護者登園日の必要性についてみんなで話し合い親御さん達が主体性をもって保護者登園日を施設側と相談して決める。現状は施設側が主体性を持っている様にみえますが、親御さん達が主体性をもって「こころ」のふれあいの場を考えてみるという事です。私の思い過ごしであれば幸いなのですが、どうもその様には感じないのです。

仮に親御さん達が決めた保護者登園日にたまたま何かと重なって出られない事もあるでしょうが、それは止むを得ないことで、そのような事が毎回続く事はないと思ひます。皆さんで考えてみて下さい。



園外活動で近代美術館の移動展を見してきました。
(しいの木学園)



誕生会でのひとこま。「おめでとう」「ありがとう」この
1年もステキな年になりますように…… (太陽の家)



水方苑で行われたミニピピコンサート。太陽の家職員
もスタッフとして参加しピピメッセージをお届けしま
した。



電車を利用し小グループ活動でガラス工房シリカにてグ
ラス作りを体験。景色の良いマウントあかねで昼食もい
ただきました。(ひまわり学園)

エプロン奉仕 閉店のお知らせ

皆様のご支援、ご協力によ
り三十有余年続けてまいりまし
たエプロン奉仕作業ですが平成
二十九年三月をもちまして店じ
まいをすることになりました。
長い間皆様方には大変お世話に
なり心から感謝しております。
特にこの日までボランティアと
してお手伝いいただきました吉
田様、餅田様には本当にお世話
になります。ただただ感謝するばか
りです。これからも機会を作り、
これまでの御交誼を続けたいも
のと思っております。

最後になりますが、これまで
お世話になりました多くの皆様
のご健勝とご多幸をお祈りしつ
つ閉店いたします。(S記)

◎平成二十九年度
NPO法人日立太陽の家
利用者総数 三百三十名
男性 百九十四名
女性 百三十六名

お知らせ

○計報
ひまわり学園
高橋 豊さん
平成二十九年四月
謹んでご冥福をお祈り申し上
げます。

ご寄付ありがとうございました

○次の方から寄付を頂きました
(敬称略) 三月～五月
黒澤弘明 佐藤芳昭 親切会
関東支部本部長 岡田政紀
日立太陽の家ボランティアG
日立太陽の家支える会
鈴木貫一 赤津浩
○次の方から物品の寄贈があり
ました (敬称略) 三月～五月
椎名将光 村田理恵 小林豊
茨城県猟友会 大森健二
根本将伍 鈴木一江 高柿祐二
篠原小百合

編集後記

七月五日、NPO法人日立太
陽の家の母体となる日立市太陽
の家が設立されて四十七年を迎
えました。たくさんの方達、先
人の方達のご協力のおかげで歩
んでくることができました。今
後も利用者さん、ご家族がより
良い生活を送れるように支援し
ていきたいと思えます。(K記)

